

2018 大阪府テクニカルスタッフオープニング報告

2018年4月8日（日）
大阪市北区民センター

今年も、250名あまりのJFAトレセン大阪スタッフおよびJFAトレセン大阪地区トレセンスタッフが出席し、2018大阪府テクニカルスタッフオープニングが開催されました。

開会にあたり（一社）大阪府サッカー協会 専務理事 藤縄信夫氏より「大阪はJ-GREEN堺をはじめ、各所で人工芝グラウンドの増設が進んできている。指導者が活躍する場も増えてきているので頑張してほしい。」と力強く挨拶をされました。

➤ JFAのめざすビジョン（一社）大阪府サッカー協会 技術委員長 星原隆昭 氏

大阪府におけるサッカーの推進として、国体選抜などの代表、トレセン活動などのユース育成、そして指導者養成の三位が一体になるとともに、普及も含めた4本の柱の強化の必要性を挙げられた。

これまでの日本サッカーの歩みの中で、ユース育成制度の構築やJリーグの開幕、トレセンの開始など様々な進化・改革を遂げてきた。

その成果もあり20年前に日本が初めてワールドカップに出場し、今日ではユースや女子も世界で戦えるだけでなく、結果を残す力をつけてきた。その中には、大阪府のトレセン出身の選手もあり、大阪が世界に繋がっているとも言える。

しかし、ヨーロッパなどでは、チームの在籍に関しても選手たちは常に選抜され、流動性が高く、必然的に競い合う環境が生まれているのに対し、日本の、特にユース以下の年代では選手の流動性が少ない。そのため世界基準を前提にすれば、すべての選手の日常のトレーニングのレベルアップが必要となってくる。我々トレセンスタッフも、常に指導のレベルアップをめざしていかなければならない。



➤ JFAトレセン大阪より、大阪府の指針 トレセンダイレクター 高橋宏治 氏

高橋氏からは「ここにいるみんなで大阪全体をよくしていこう」という発声から始まり、このオープニングにいるのは大阪府の「育成」の中心となる人材であり、大阪が世界をリードする、という強いメッセージを伝えられた。

現在の代表にも大阪府のトレセン出身選手は多く、「世界基準＝大阪基準」として日本代表、そして世界で戦える選手を育てていかねばならない。そこには、J組織だけでなく、タウンクラブからの選出も含まれている。トレセンスタッフはボランティアではあるが、選手の未来に触れており、ピッチの内外問わず、OSAKAのエンブレムに責任と誇りを持ち取り組んでもらいたい。スタッフひとり一人が大阪の力であり、トレセン活動はそれぞれの情熱で支えられている。すべては選手の為に我々スタッフは、その責任も自覚しなければならない。

*その後、日々のトレセントレーニングについての確認と、スタッフ（各チーフ）の紹介があり、国体監督が挨拶をされました。



・国体監督（少年男子）梶田浩信 氏より

U-12 および U-15 で関わった選手が国体メンバーにも入ってくると思うので、みんなで力を合わせて優勝をめざす。

・国体監督（女子）安田真季 氏より

今年は近畿1枠ということで、非常に難しい戦いになると思うが、トレセン女子 U-18を中心に若い力でアグレッシブに戦いたい。

➤ 指導者養成ダイレクター 安楽竜二 氏より

トレセンスタッフの指導力のステップアップになるように努力したい。

➤ ユースダイレクターより大阪府の指針 ユースダイレクター 上野二郎 氏

上野氏からは、JJP 海外指導者研修会の報告と、ベルギーの育成にと比較した日本の育成への思慮を話していただきました。

ベルギーはその国土の距離が 150 k m 足らずで、国内だけでなく近隣国も含め選手の奪いが必至である。育成リーグの昇降格は、勝負の結果で決まるのではなく。エリートライセンス（トップに何人の選手が輩出されているか、コーチの人数・待遇、練習環境などがポイント化される）で決まる。

ベルギー協会から得た、日本の育成に必要な事柄としては、

- ・選手の発掘、見落とさないこと。将来を見据えた選考。
- ・計画的な育成。一貫指導の確立、育成のフィロソフィーの共有、トレーニングおよびゲーム環境の整備、学校との連携。

大阪はJクラブ、タウンクラブ、サッカー協会の協力体制があり、育成はトップクラスである。しかし、そこに満足してはいけない。世界の實力とは差があるのが現状である。自ら学ぶ姿勢で「〇〇がないからできない」ではなく「だからこそやってやろう」という前向きなメンタリティで望みたい。解決方法は情熱と工夫で探し出せるはずだ。

最後に、閉会に先立って小林秀彦 前ユースダイレクターより、大阪のサッカーをより発展させるべく 2018 年度のトレセン活動にも協力を仰ぎたいとの挨拶があり、本日のオープニングの様子や先のトレセンスタッフ研修会の様子を映し出したスライドショーで締めくくった。

「世界基準をトレセンの日常に」

「JFAトレセン大阪は、日常から世界を意識する」